

花き全国技術実証2023協議会【担当機関：鹿児島県農業開発総合センター】

背景とねらい

盆・彼岸需要を目的とした夏秋輪ギクの出荷は、高温による開花遅延や気象の影響を受けやすく、国産品の流通が不安定である。一方、消費者の嗜好の変化から洋マムと称されるタイプ「ディスバッドマム等」の需要が急伸している。実需者の中には、消費者の嗜好の変化への対応、安定数量確保のため海外産品を志向する事例が増えつつある。そこで、輸入品に対する競争力強化に資するため、国産のキク切り花を安定供給できる体制の構築に取り組み、需要期出荷率の向上を目指す。

実証技術の概要①

夏秋輪ギク「精の一世」の開花遅延対策技術の確立

消灯後1週間ごとに26℃以上の高夜温に遭遇させた結果・・・

試験区の構成

区	消灯からの週数						
	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目
①	夜温20℃						
②	高夜温						
③		高夜温					
④			高夜温				
⑤				高夜温			
⑥					高夜温		
⑦						高夜温	
⑧							高夜温
⑨	高夜温(26℃以上)						

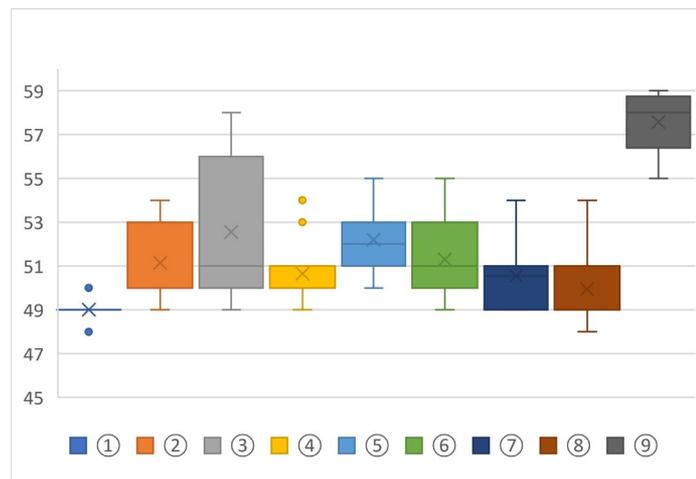
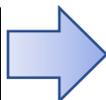


図1 到花日数の比較

消灯後の1週目から6週目までの各ステージにおいて高温に遭遇した区はどの区も、1日から3日の開花遅延した



ヒートポンプ夜冷栽培で開花遅延を防止するためには消灯後6週目までは夜冷処理が必要

実証技術の概要②

ディスプレイダリア9月出し栽培における適品種の検討

24品種を用いヒートポンプによる夜冷栽培と慣行栽培の比較試験実施

表1 試験区ごとの到花日数別品種数

試験区	到花日数				
	～49	50～56	57～63	64～70	71～
①対照区	0	0	2	10	12
②ヒートポンプ夜冷区	1	1	10	11	1
③LEDイーヒート+除湿型冷房装置	0	0	0	4	20

◎到花日数は1週間短くなる。

◎ピンク系の褪色，花径の縮小化が改善。改善点

×ガク焼け，総苞肥大等は品種間差がある。 → 日中の遮光・遮熱



図2 ピンク系の花色の比較
(左：夜冷有，右：夜冷無)



図3 ガク焼けの品種間差 (何れもHP区)

期待される効果

ヒートポンプを利用した夜冷栽培の普及により



ヒートポンプの普及
拡大に期待

- ・ 盆，彼岸出しの夏秋期の安定出荷
- ・ 需給バランスが保たれ，花き全体の価格や消費が安定
- ・ 暖房にも活用でき、燃油高騰対策につながる
- ・ ディスパッドダリアの出荷期が拡大し，需要が増加



夏秋期の異常高夜温
による開花遅延解消



夏秋期のディス
パッドの安定生産